

伊水のふり

金二百五十万

法人 三

株の収十、馬ヶ原也

大の十三年下期一株に對し 金一円也

拂込金對し 一円 恩の割合

大の十三年上期一株に對し 金一円也

拂込金對し 一円 恩の割合

同社の大株は多く米口人ありといふ。

大の十三年下期に對し

大の十三年

伊之報

日本一電報の純正なること

四能素園中セエが、甚人マラドナルドの純正なること、被隣館に集

にす、やくになつた理由は、従来女史は日利の力協後向せし

對し、一のあり理解を有し、由據に種々の書空カミし、未だり

ひあふが、殊に女同成す、在後同是如人部、(或り中、實

了、物告あり、日中電キ、セエハ十餘のミ中、(野、及、歴

史、その妻女を中心として、(願向にあつた、同位、あること

思ひ、

此し、女史は、この後、その被隣館、(此の)中、(此の)中、

筆源、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、

の、中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、

解を招く、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、(此の)中、

財團 協 調 會